

ひかり

2018年5月号



日本聖公会 三光教会

第666号

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

電話 03(3781)2554

FAX 03(3781)2544

<http://nssk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

創立 救主降誕 1912年(大正元年)11月2日

St. John

「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにして下さる。」 (ヨハネによる福音書 14:16)

聖餐を頂く

司祭 グレース 神崎 和子

5月の連休前に機会が与えられ、四国の徳島へ行きました。40数年ぶりの訪問です。徳島駅前の風景は一変しており、記憶を辿りながら駅周辺を歩きました。しかしあまりの変貌にびっくりし戸惑いを感じました。時の経過を改めて覚えました。

毎週日曜日に通っていた徳島インマヌエル教会への道も全く分かって来ない。まさに40数年ぶりに帰って来た浦島太郎の様でした。けれども町名を確認しながらやとたどり着いた教会は昔のままの教会の姿でした。暖かく「お帰りなさい」と言ってくれているようでした。

私と夫との突然の訪問に信徒の方々が大興奮で「スペンシャルサプライズ」と叫んでいました。心から歓迎してくださいました。

40数年ぶりの主日の礼拝です。無意識の間に聖職者として、礼拝堂やチャンセルを見ていました。そして聖餐式もそのような目で見ている私がありました。ところが

不思議です。聖餐式が「感謝聖別」の部分になった時、自分でも不思議な気持ちに襲われました。「私はここから始まった」という思いです。神様の大きなご計画の中で「私はここから歩み出した」という言葉が湧き出てきました。

聖職者の妻として神戸教区の徳島インマヌエル教会で多くの体験をしました。大変な思いや苦しいこともありましたが、でも、信徒の方々の暖かいお支えも沢山ありました。それを忘れることはありません。

そのような長い道を歩いて今、三光教会の牧師、また渋谷聖公会聖ミカエル教会の管理牧師として、神様が私をお支えくださり、用いてくださっている。そしてこの聖餐で養ってくださると思った時、涙がほほを伝っていました。

この徳島での出来事を経験し、改めて神に招かれていることを再確認しました。今、私は信徒の方々としっかりと向き合いながら、私に与えられた職務を誠実にこなしていきたいと思っています。この様に立ち止まって再確認できる機会を与えられたことを、神様に感謝致します。

5月・6月の予定

◆5月

6日(日) 復活節第6主日

7日(月) 昇天前祈祷日

8日(火) 5月逝去者記念礼拝(聖餐式)

9日(水) 昇天前祈祷日

10日(木) 聖書に学ぶ会(旧約)

11日(金) 昇天日前夕

12日(土) 主日教会博士ナジアンソスのグレゴリー

13日(日) 昇天日

14日(月) 復活節第7主日(昇天後主日)

15日(火) 聖書に学ぶ会(新約)

16日(水) 聖書に学ぶ会(旧約)

17日(木) 聖霊降臨日前夕

18日(金) 聖霊降臨日

19日(土) 聖書に学ぶ会(旧約)

20日(日) 聖書に学ぶ会(新約)

21日(月) 司祭教会博士ビード

22日(火) (夏期聖職按手節)

23日(水) 主教カンタベリーの

24日(木) オーガスチン

25日(金) (夏期聖職按手節)

26日(土) 三位一体主日

27日(日) 聖霊降臨後第1主日

28日(月) 聖餐感謝日

29日(火) おとめ聖マリヤの訪問

30日(水) 聖霊降臨後第2主日

31日(木) 6月逝去者記念礼拝(聖餐式)

1日(金) 殉教者主教ボニファース

2日(土) 聖書に学ぶ会(新約)

3日(日) 修院長コロンバ

4日(月) 聖霊降臨後3主日

5日(火) 9日(土) 聖霊降臨後3主日

11日(日) 9日(土) 聖霊降臨後3主日

12日(月) 9日(土) 聖霊降臨後3主日

春の遠足（学習会）

多磨全生園の国立ハンセン病
資料館を見学

4月12（水）日に社会委員会の主催で、国立療養所（国立13カ所・私立1カ所）の一つである東村山市の多磨全生園（1909年・明治42年開設）内の国立ハンセン病資料館（1993年・平成5年開館）を見学してきました。当日は春の嵐が懸念されましたが、神崎司祭を始め、男性4名、女性9名の13名が参加しました。

日本聖公会では2016年（平成28年）の総会で、いろいろな変遷があったとはいえ国家のハンセン病政策を支持・黙認してきたことを反省して、ハンセン病回復者と家族の皆さまへの謝罪が決議されました。その声明のなかで日本聖公会は、ハンセン病患者や家族に対する偏見・差別をなくすための啓発活動に積極的に取り組んでいくことを約束しました。このような主旨から今回の見学が計画されました。



〈写真は安次嶺泉兄が撮影〉

私のハンセン病への認識は、映画「ベン・ハー」（中学生の頃）、松本清張の小説・映画「砂の器」（社会人になって）、聖書、樹木希林主演の「あん」程度で、身近なものではありませんでした。又、父が生前にハンセン病の方と握手する機会があったときに一瞬躊躇してしまったことを悔いていたことを思い出します。

全生園は約10万坪、東京ドームの7・6個分の広大な敷地に色とりどりのチューリップが咲き誇っている住宅地区、浴場・売店・病

棟等の公共の場、教会・仏教の宗教地区が点在していました。

資料館の展示物を目の当たりにするまでは発症者が警官に連行されたとしても入所すれば園内には日常生活に必要なもの、娯楽施設、消防施設、火葬場、納骨堂まで用意され、一見、何不自由なく暮らせる環境にみえました。しかし、実際は、これら施設は入所者の治療のためではなく、あくまでも終生隔離するためのものでした。現在は逃走を防ぐための空壕は撤去され開放感がありますが、かつては入所したら亡くなるまでこの閉鎖された場所に家族とも隔離され亡くなくても故郷へも戻れませんでした。



今回の資料館の見学を通じて入所者がどんな思いで生涯を終えられたか、又、このような過酷な状況におかれた原因となった偏見・

差別にこれまでは思いが至りませんでした。「過ちては則ち改むるに憚ること勿れ」―踏み出す行動力が大切だと思い知りました。

その後、敷地内にある聖フランシス聖エリザベツ礼拝堂を訪問し、井口司祭よりお話を伺いました。

療養所に宗教施設（教会・寺院が6カ所）が設置された背景は、入所者が亡くなったときにどの宗教で葬儀するか必要から宗教を選択させられたとのことでした。日本聖公会の信徒数はピーク時には97名、現在は9名の方が在籍されます。平均年齢は80歳、礼拝には車椅子で参加される方が多いそうです。

礼拝堂の隣室には歴代の司祭の方々の写真、現在信徒、逝去者の名札が掲げられており、長い歴史に思いを馳せました。井口司祭は私達への対応後、入所家族への家庭訪問に向かわれました。

当資料館は教会から一時間半の距離にあります。皆さまも是非、一度、訪れることをお勧めします。

広大な園内の桜やけやきの大木をみるにつけ、長い間の偏見・差別に想いをよせる貴重な一日でありました。（記・吉川 晃）

チャリティBBQを開催

去る4月15日(日)に、神崎司祭のご主人である神崎雄二先生の歓迎会を兼ねて開催しました。

先ず乾杯して美味しい料理に舌鼓、楽しい話に花が咲き、焼きたがる野菜や魚・肉などを頬張り、総勢25名、和やかな時間を過ごすことが出来ました。飲み物や料理の提供を頂いたお蔭で食費の残りを加えた3万円を釜石支援センター「望」へ送金しました。感謝します。
(記・頼 仰史)

春のワーク、無事終了!!

4月7日(土)、10時～15時まで春のワークを行いました。お天気に恵まれ21名の方々が作業に参加してくださいました。

作業の内容は、①中原街道側の庭の片付け、②中原街道側の庭に置いてある石油タンクの解体、③鏡付き戸棚の解体、④ぶらさがり健康器の解体、⑤香蘭側聖堂裏にある物置解体材の処理、⑥多目的室扉取っ手部分の修理、⑦前庭駐車場のライン引き、⑧事務棟裏の

片付け、⑨牧師館の便座交換、などでした。

男性は主に解体作業や修理など、女性には草むしりや落ち葉掃きなど普段なかなか手の届かなかった会館や事務棟の裏側をきれいにすることが出来ました。ゴミがたくさん出ました。一度に捨てることが出来ず、少しずつ処理しています。作業に参加してくださった皆さん、ありがとうございました。怪我もなく無事終了したことは感謝です。次回は12月の初めに行いたいと予定しています。よろしくお願いいたします。

(総務委員長・大川由美子)

教会のお掃除にご協力を

聖堂内外のお掃除の協力者が少なくなりました。土曜日の午前10時から1時間程ご奉仕ください。ご協力いただける方は直接参加してください。

はじめて教会にいらした方へ

礼拝様式に馴れない方は椅子にお掛けになったままで結構です。
●礼拝中の献金は、信施金として伝道のために献げられるものです。金額は自由です。
●わからない点は隣の席の者か案内係にお聞きください。

礼拝のご案内

■主日礼拝

午前 7:00 早祷・嘆願
午前 7:30 聖餐式
午前 9:00 ステパノ会
(日曜学校)礼拝
午前 10:30 聖餐式
午後 4:00 夕の礼拝

■平日礼拝

月曜日から土曜日までは、
毎朝 6:30 の早祷に引き続いて聖餐式